

★物品の洗浄・消毒のポイント★

- ・施設内の病原体による物品の汚染も感染症の発生・拡大の原因となる場合があります。
- ・このため、個人ごとに使用できる物品は、入居者間で共有しないように管理する必要があります。
- ・入居者間で共有して使用する物品は、清潔な管理に十分注意しましょう。
- ・事前に洗浄を行わないと消毒効果が下がるため、全ての物品の処理は、消毒前の洗浄が基本となります。
- ・消毒方法・消毒薬によって、効果のある病原体の種類や範囲が異なります。用途に応じて適切な消毒を選択しましょう。
- ・消毒にともなう人体への悪影響にも配慮しましょう

■ この作業に必要な个人防护具 ■



使い捨て手袋
サージカルマスク
使い捨てビニルエプロン
フェイスシールド（ゴーグル）

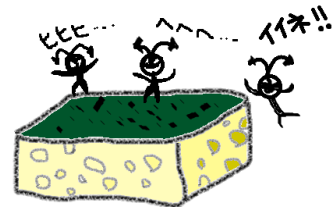
洗浄時には、物品を汚染している病原体が
飛びはねるので危険です。
（ユニフォームを汚染し、病原体の施設内
伝播の原因となります）
消毒時には、消毒薬が飛びはねるので危険です。
これらの理由から、个人防护具の着用を
お勧めします！



■ 施設全体の管理 ■

- ◆ 物品の消毒薬としては、次亜塩素酸ナトリウムなどの塩素系消毒薬が最も身近なもので効果が高く、色々な場面で使用できます。一方、臭気が強く、酸性洗剤との配合で塩素ガスが発生するなどのデメリットもあるため、濃度希釈方法をはじめとして、全スタッフが安全に取り扱えるように、研修会・勉強会などを行いましょう。 **目標**
- ◆ 最初から0.1%（1,000 ppm）程度に調整され、洗浄剤入りの製品も入手可能です。予算的に採用可能であれば、日常の消毒処理作業も簡素化できて便利です。 **目標**
- ◆ 消毒薬は、入居者が触れないように厳重に保管しましょう。 **守る！**
- ◆ 様々な消毒薬が販売されているため、自施設にある消毒薬が、それぞれどのタイプのものに属するのか確認を行い、全スタッフへ教育しましょう。 **守る！**
- ◆ 消毒薬は保管方法が決められているので注意しましょう。例えば塩素系消毒薬・漂白剤は冷所暗所での保管が基本（遮光が必要です）となります。 **守る！**
- ◆ ベットパンウォッシャーをはじめとするウォッシャーディスインフェクター（自動の熱水洗浄装置）があると、物品の洗浄・消毒処理作業が簡素化します。大きな施設では検討してみましょう。 **目標**
- ◆ 洗浄に用いるスポンジも、薬剤耐性菌などに汚染されて感染源になります。使用後は洗剤でよく洗い、しっかりと乾燥させましょう。2週に1回以上は新品と交換しましょう。（何日に捨てる、と決めておくとうわりやすいでしょう。） **守る！**

バイキンはスポンジが大好き！！



- ◆ 人がいる空間での消毒薬の噴霧は、安全性が確保されていないため、推奨されていません。 **ダメ！**

※いくつかの雑品で「空間除菌」などの名目で、何らかの物質を噴霧するものがあります。効果はともかく、安全性は不明なものがほとんどです。とくに、数回の使用による短期的毒性についての検討はしていた場合も、長期に連続的に吸引した場合の影響については確認されていないことが多いので注意が必要です。

- ◆ 消毒処理後の物品は、よく乾燥させましょう。乾燥させる時にも、使用後の物品の近くで行わない、水分を受けるペーパー等を何度も使いまわさない、など、せっかく消毒した物品が汚染されないように置き場に注意しましょう。 **守る！**

※口を下に向け、立てて乾燥が基本です。食器用乾燥機などがあると便利でしょう。

- ◆消毒後の物品は、消毒後であることが分かるように表示をするか、清潔な置き場所を決めましょう。
汚染されないように置き場所に注意しましょう。 **守る！**

※可能ならば、蓋つきのケースなどに
収納できると良いでしょう。 **目標**

※簡易便器等でも、消毒後のものは汚物室に
置かない方が良いでしょう。 **目標**

※汚物室に保管する場合にも、汚物槽周囲・使用後
の物品置き場周囲など、汚染されている可能性の
ある場所は避けましょう。 **ダメ！**



- ◆洗浄・消毒を行うスタッフは、手袋・サージカルマスク・使い捨てビニルエプロン（清潔に管理できる
なら、洗浄消毒作業用の使い捨てでない防水エプロンでも良いでしょう）、フェイスシールド（または
ゴーグル）も着用します。 **守る！**

※消毒薬を使用する場合には目に入ると危険であるので、その点からも目の保護が必要です。

■ 洗浄の注意点 ■

- ◆物品は可能な限り分解し、溝など隅々までブラシ等でよく洗浄することが重要です。 **守る！**
- ◆消毒前に、目に見える汚れをよく落とすことが必要です。 **守る！**
- ◆洗浄の段階では、まだ物品に病原体が残っているので、洗浄する液などが周囲に飛散して汚染しない
ように注意しましょう。 **守る！**

※洗い桶を使って、水面下で洗浄すると水はねが少なくなります。

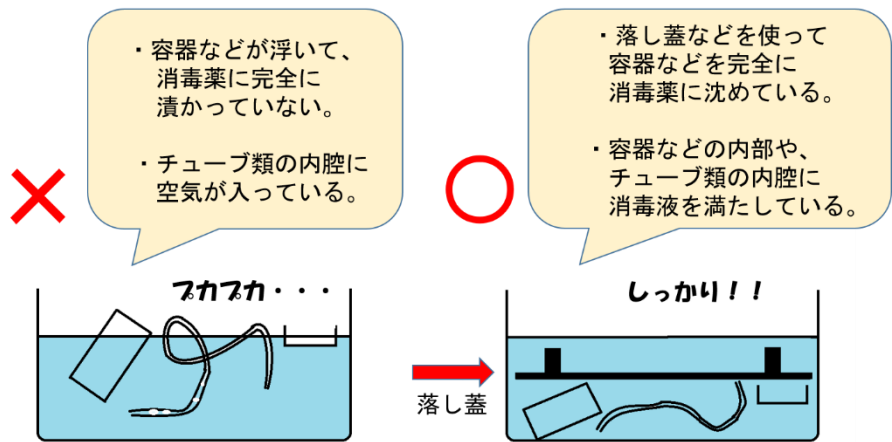
- ◆別の作業に移る際には、手袋>手指衛生>エプロン・フェイスシールド>手指衛生>マスクの順に
外し、最後に手指消毒用アルコールによる手指衛生を実施しましょう。 **守る！**

■ 消毒の注意点 ■

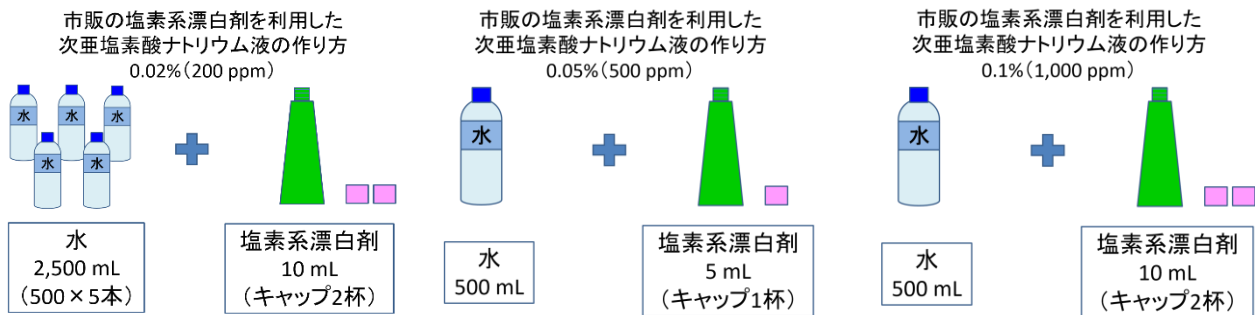
- ◆物品や、使用目的に応じた消毒方法を選択しましょう。 **守る！**
- ◆いずれの消毒処理でも、換気を十分に行いながら実施しましょう。 **守る！**
- ◆消毒薬は、瞬間的に作用するものではありません。適切な濃度・作用時間が重要です。次亜塩素酸
ナトリウムなどの塩素系消毒薬は、作り置きすると濃度が変化するので、その都度作成が必要です。
守る！
- ◆消毒薬に浸漬する時には、物品が完全に沈んで消毒薬に漬かるように、バケツなどの容器内に落とし蓋
をしましょう。瓶などの場合、内部に気泡が残る場合があるので、注意しましょう。 **守る！**

◆別の作業に移る際には、手袋>手指衛生>エプロン・フェイスシールド>手指衛生>マスクの順に外し、最後に手指消毒用アルコールによる手指衛生を実施しましょう。 **守る！**

図. 物品等を消毒薬に浸漬する際の注意点



◆物品に適用する主な消毒の種類・特徴・主な対象◆		
消毒方法	特徴	主な対象
熱水消毒 (80℃10分・ 85℃1分)	芽胞以外の多くの病原体に有効。 熱に弱い物品には使用できない。 熱傷に注意。	汚染リネン、汚染衣服、食器、尿器、簡易便器、 吸引ビンなど器具一般。
次亜塩素酸ナトリウム	濃度により用途が異なる。 芽胞以外の多くの病原体に有効。 臭気・塩素ガス発生危険性あり。 漂白されるデメリットがある。	汚染リネン、汚染衣服、食器、尿器、簡易便器、 吸引ビンなど器具一般。 環境消毒にも有効。
アルコール系消毒薬	一般的な細菌には有効。 ノロウイルスなど効果の低いウイルスがいる。 濃度管理が重要。	環境表面(手すり、ドアノブ、テーブル等)や 聴診器、体温計などに使用される。 洗浄剤入りの製品は、日常的な環境整備にも 活躍する。
第四級アンモニウム塩	消毒効果のある病原体の種類は 少ないが、安価。	洗浄剤入りのワイプ製品(環境クロス)が数多く 販売されており、日常的な環境整備に活躍する。



物品	推奨される消毒処理	問題点・注意点
汚染された食器	85℃ 1分・80℃10分の熱水消毒 または0.1%（1,000 ppm）程度の濃度の次亜塩素酸ナトリウム液＜明らかな吐物・排泄物の汚染がなければ0.02%（200 ppm でも可）に5-10分浸漬した後、通常通り洗浄する。	食器の傷み。
汚染された衣服・ リネン類（排泄清拭後のタオルを含む）	85℃ 1分・80℃10分の熱水洗濯。 または汚れを簡単に洗浄した後、次亜塩素酸ナトリウム液に浸漬する。通常の糞便等では0.02%（200 ppm）程度に10分で十分と考えられるが、血液・体液・下痢便・嘔吐物による汚染では、0.1%（1,000 ppm）に30分程度浸漬し、その後、洗濯する。	衣服の傷み、漂白。 ノロウイルス胃腸炎を疑う場合には、下着等は廃棄するのも一つの方法。
使用後の尿器・ 陰部洗浄ボトル・ ガーグルバイスン・ 簡易便器・ポータブルトイレの排泄物容器など （使用後保管または他の入居者に使用する場合）	85℃ 1分・80℃10分の熱水洗浄。 または洗浄後に0.1%（1,000 ppm）の次亜塩素酸ナトリウム液に5-30分間程度浸漬する。	尿器の消耗・破損。
ポータブルトイレの外表面 （使用後保管または他の入居者に使用する場合）	中性洗剤を含んだペーパー等で汚染物をよく拭き取った後、0.1%（1,000 ppm）程度の次亜塩素酸ナトリウムを含んだペーパー等で2回拭き消毒し、最後に軽く水拭きする。	漂白のおそれ。
口腔ケア用品	使用ごとに洗浄し（多数の入居者の物品をまとめて洗浄せず、入居者ごとに実施する）よく乾燥させる。	個人ごとに保管する。
経管栄養セット	ボトル型：毎回使用後、食器用洗剤でよく洗浄し、完全に乾燥させる。可能であれば食器用乾燥機を用いる。 バッグ型および栄養チューブ：毎回使用後、食器洗剤でよく注水洗浄し、次回使用時まで0.01-0.02%（100-200 ppm）の次亜塩素酸ナトリウム液に浸漬する。	浸漬する際に、浮いたり、気泡が出来たり、消毒薬が接しない状況を避ける。
聴診器・体温計・ 血圧計など不特定多数に使用される物品	拭き取れる製品の場合、使用ごとに、表面を消毒用アルコールで拭き取る。	

吸引器・吸引カテーテル	吸引器本体:使用ごとに表面を洗浄剤+消毒薬含有のワイプ（環境クロス）で拭くか、消毒用アルコールで拭き消毒を行う。 吸引器とカテーテルの間をつなぐチューブ:洗剤を用いてよく注水洗浄した後、0.1%（1,000 ppm）の次亜塩素酸ナトリウムでチューブ内を満たし、30分程度消毒する。その後よく乾燥させる。 集痰ビン:85℃ 1分または80℃10分の熱水洗浄または中性洗剤で洗浄した後、0.1%（1,000 ppm）の次亜塩素酸ナトリウムに30分程度浸漬させ消毒する。 吸引カテーテル:使用ごとにアルコール綿で外表面に付着した分泌物を拭き取り、清潔なカップに準備した水道水を注水してカテーテルの内腔を十分に洗浄する。カップの水を全量吸引した後、カテーテル内腔に水が残らないように空気を吸う。その後、消毒薬（消毒用アルコール、0.1%塩化ベンザルコニウム、0.1%塩化ベンゼトニウムなど）を吸引しチューブ内腔を消毒・乾燥させる。洗浄消毒したカテーテルは、乾燥した清潔な蓋つきの容器に入れて保管する。	
車いす・杖（汚染されていない場合）	スタッフ・入居者ともに触れる部位: 可能ならば毎日、消毒用アルコールまたは洗浄剤+消毒薬含有ワイプ（環境クロス）で拭き消毒する。 それ以外の場所:時々上記の方法で拭き消毒できると良い。	
レクリエーション・リハビリテーション器具	使用后、消毒用アルコールまたは洗浄剤+消毒薬含有ワイプ（環境クロス）で拭き取る。リハビリテーション用の器具で、次々と不特定多数が触れる物品は、入居者ごとに拭けるとなお良い。	
ナースウォッチ・施設用 PHS・ペンライトなど、スタッフが個人持ちする物品	必須ではないが、1日1回程度、消毒用アルコールまたは洗浄剤+消毒薬含有ワイプ（環境クロス）で拭き取れると、スタッフの手指やユニフォームの汚染リスクが軽減される。	

※入浴用品については「入浴介助」の項を参照。

※日常的な環境（手すり、ドアノブ、テーブル）表面の消毒については「清掃・環境整備」を参照。

■ <補足>次亜塩素酸水について ■

- ◆ 次亜塩素酸水は、塩酸又は食塩水を電解することにより得られる次亜塩素酸を主成分とする水溶液です。次亜塩素酸ナトリウムとは全く別物であるので注意して下さい。
- ◆ これまで消毒薬として認可されてこなかったため、医療施設において推奨されることはありませんでした。
- ◆ しかし令和2年6月に（独）製品評価技術基盤機構（NITE）及び経済産業省において、一定の条件下で、物品から新型コロナウイルス除去の効果が確認されました。ただし、現時点で安全性の評価はまだであるので、省庁からの情報をよく確認し、使用できる状況を確認しながら利用しましょう。また、施設で問題となる病原体は新型コロナウイルスだけではなく、次亜塩素酸水が消毒薬に代わるものではないことを十分理解して下さい。
- ◆ 特に、噴霧については安全性（とくに長期的な毒性）が不明であり、本手順書では推奨しません。

※この手順書は、国立研究開発法人 日本医療研究開発機構（AMED）の研究助成を受けて作成したものです。

採択年度：2018年度 事業名：長寿・障害総合研究事業 研究期間：2018年4月—2021年3月

課題名：長期滞在型高齢者福祉施設における効率的な感染対策プログラムの開発 研究代表者：笹原鉄平（自治医科大学）